

文学部 教授 板坂則子 Noriko Itasaka

昔の中国の話です。山の上に大きな古い卒塔婆（墓石）が立っていて、麓に住む老婆が毎日、苦勞して山頂まで上ってその卒塔婆を点検していました。若者がその理由を聞くと、この塔に血が付くと山が崩れると伝えられているからだと答えました。若者たちは老婆を驚かせようと、塔に血を付けて笑い合いました。翌日、塔の血を見つけた老婆は人々に危険を知らせましたが誰も動かず、老婆の家族だけが逃げたのです。その後、山が崩れて深い海となり、多くの人々が亡くなったといえます。『宇治拾遺物語』という説話集には、こんな話や「こぶとり爺さん」のような皆さんが知っている話も多く載っています。説話は不思議を語る短編物語で、『宇治拾遺物語』は鎌倉初期に作られたものですから、子ども向けの話ではありません。たとえば卒塔婆の話を、伊東氏はこう読み解きます。若者のいたずら心からの思いつきが、「実は遠い昔から彼らに定められていた（彼らの）運命だった」のだと。本書は全 197 話の中から 35 話を厳選して現代語訳とその原文を並べ、さらに全体の粗筋を補い、その上で各話のエピソードや類話、研究者たちの成果をさりげなく並べています。



『宇治拾遺物語』というひとすじ縄ではいかない書物の構想や特徴を、まことに読みやすく解いているのです。そう、古典入門者にも、そして卒業論文で扱ってみたい...と思う専門志向の人にも大満足の一冊なのです。通学のお供に、ちょっと手に取ってみませんか？

宇治拾遺物語 / 伊東玉美編
KADOKAWA, 2017.9
(角川文庫)



本 館 K/913.4/U57
神田分館 /913.4/U57